

韓国国立現代舞踊団（KNCDC）での委嘱作品、イギリスツアーが決定 ～前作『TAMA』の創作手法を発展したダンス作品 鈴木竜 振付『Hakkō』～



©Korea National Contemporary Dance Company・Choi Keunou (STUDIO OFF-BEAT)

文化庁「文化芸術活動基盤強化基金」における「クリエイター・アーティスト等育成事業」【舞踊部門】として採択を受けた「世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”」（以下、“Wings”）で2024年に発表した『TAMA』の創作手法を発展した、振付家・鈴木竜への委嘱ダンス作品『Hakkō』が、韓国唯一の国立現代舞踊団（Korea National Contemporary Dance Company、以下KNCDC）のダブルビル公演として、2026年5月にイギリスの2都市を巡るツアーを行うことが決定しました。

クリエイター支援基金による事業で選出されたクリエイターが、海外のカンパニーでリサーチを深め、ダンスフェスティバルへの参加という形で海外発信されるこのプロセスは、“Wings”がめざす「日本のダンスクリエイターの国際的な活躍」が着実に実現しつつある事例のひとつです。

鈴木竜は、2024年に愛知県芸術劇場との共同製作で、「けん玉」の身体性とリズムを反復し、意識の深部へと誘う『TAMA』を発表。同作は2025年9月、韓国・光州の国立アジアカルチャーセンター（ACC）から招聘を受け、“Wings”として初の海外公演を実現しました。今回の『Hakkō』は、『TAMA』の創作手法をさらに発展させ、日本古来の発酵の思想に着想を得た新作です。『TAMA』が振付家自身を含む2名で上演されたのに対し、『Hakkō』の初演では、12名の群舞による反復する動きの積み重ねが身体と精神に変容をもたらす過程を、発酵のプロセスになぞらえて描きました。絶え間なく変動する世界の中でひたすら「呼吸し続けること」への、現代的な祈りとも言えるこの作品が、KNCDCの洗練されたダンサーたちによって上演されます。

公演は「A Festival of Korean Dance 2026」（第9回）への参加として実現したものです。同フェスティバルは2018年の英韓シーズンを起点に始まり、今や英国における韓国現代ダンスの最重要プラットフォームとして定着しています。詳細は下記をご参照ください。

■ 今後の展開

“Wings”では、本作と並行して、2025年度に発表した阿目虎南、岩淵貞太、小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク、柿崎麻莉子、高橋萌登による5作品についても、順次海外での上演、プレゼンテーションの実施を予定し、関係機関と対話を続けています。

それぞれのクリエイターが独自の創作言語で国際舞台へ羽ばたく、今後の展開にご期待ください。

■ 公演情報

タイトル	KNCDC 「Voyage / Hakkō」 (ダブルビル)
日時・会場	【マンチェスター公演】 会場：The Lowry 2026年5月26日 (火) / 27日 (水) 20:00開演 【ロンドン公演】 会場：The Place 2026年5月29日 (金) / 30日 8(土) 19:30開演
フェスティバル	A Festival of Korean Dance 2026 (第9回)
プログラム	Voyage (振付：Young-doo Jung) / Hakkō (振付：鈴木竜)
チケット・詳細	https://theplace.org.uk/events/summer-26-voyage-hakk%C5%8D/
主催	The Place、Korean Cultural Centre UK
連携	Lowry、Tramway、Dance City、Pavilion Dance South West
助成	SIDance、MODAFE

■ プロフィール

鈴木竜 (すずきりゅう)

振付家・ダンサー・DaBY “Wings” クリエイター。

ダンサー、振付家としての経験を経て、2020-2023年DaBYアソシエイトコレオグラファー就任。21年に愛知県芸術劇場にてコロナ禍で現代社会における「身体の不在」をテーマに3つの新作を発表し22年にインド、リトアニア、国内で再演を重ねる。23年、愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクトにて『Rain』を現代美術作家の大巻伸嗣、サウンドアーティストのevalaとともに創作。国内4ヶ所、香港のNew Vision Arts Festivalにて上演。“Wings”クリエイターとして2024年に愛知県芸術劇場との共同製作で『TAMA』を初演。2025年9月には韓国ACCより招聘を受け、同作初の海外公演を実現した。



唐津絵理 (からつえり)

『TAMA』プロデューサー / “Wings” メンター

Dance Base Yokohama アーティストティックディレクター / 愛知県芸術劇場 常務理事 芸術監督 (アーティストティックディレクター)。

1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2010年-16年あいちトリエンナーレのキュレーター(パフォーミング・アーツ)。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。愛知県発信の国内外ツアーを多数開催する。

DaBY設立を機に、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等に積極的に関わる。セガサミー文化芸術財団理事。

令和4年度(第73回)芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)受賞。



photos by Takayuki Abe

■ Korea National Contemporary Dance Company (KNCDC) / 鈴木竜 『Hakkō』 イギリスツアー

振付：鈴木竜

ダンサー：キム・ミョンソン、キム・ウンジュ、ノ・ジュホ、パク・ミンジ、パク・ジュニョン、オク・モソン、イ・ジョンウン、チョン・ジョンウン（初演12名より、本ツアーでは8名に改変）

作曲・音楽監督：tatsukiamano

衣裳デザイン：チョン・ホジン

照明デザイン：キム・ジョンファ

舞台監督：チョ・ウンジン

音響ディレクション：イ・ドンジュン

※ 『Hakkō』 は「世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”」を通じて製作した『TAMA』(2024年)の創作手法を発展させた作品です。

■ 鈴木竜 『TAMA』 (初演時クレジット)

演出・振付・出演：鈴木竜

出演：岡本優

音楽：音無史哉、タツキアmano

衣裳：藤谷香子

リサーチ協力：植松侑子、堀川七菜

プロデュース：唐津絵理（愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama）

技術統括：世古口善徳（愛知県芸術劇場）

舞台監督：川上大二郎（スケラボ）

舞台監督助手：小黒亜衣子

照明デザイン：櫛田晃代

音響デザイン：中原楽

初演: 2024年11月（愛知県芸術劇場）★パフォーミングアーツ・セレクション2024「間（あいだ）の時間」にて

企画制作・共同製作：Dance Base Yokohama [一般財団法人セガサミー文化芸術財団]、愛知県芸術劇場 [愛知県文化振興事業団]

助成：クリエイター支援基金

